

第30回全国交流集会基調（案）

一步ふみだす、勇気と行動を！

第30回全国交流集会は、様々な困難を乗り越え、歴史的にも一つの区切りとなる集会でもあり、友の会運動・大衆学習運動の中間総括の場として位置付けています。したがって、昨年の県協連総会で確認しあった「意義と課題」を基本に据えた「基調」を提起し、全国の仲間の具体的成果と討論で豊富化してください。

敗戦から80年、平和憲法の危機

今年は、1945年8月15日の敗戦から80年目を迎えます。第二次世界大戦の悲惨な体験を踏まえ、戦争についての深い反省に基づき平和主義を基本原理として、戦争と戦力の放棄を宣言した日本国憲法が制定され78年です。

日本国憲法は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の三つを基本原理としており、世界に誇れる「平和憲法」です。国民主権も基本的人権も、ともに「人間の尊厳」という最も基本的な原理に由来し、それが「人類普遍の原理」とされています。

平和主義は、第一に、侵略戦争を含めた一切の戦争と武力の行使および武力による威嚇を放棄したこと、第二に、それを徹底するために戦力の不保持を選択したこと、第三に、国の交戦権を否定したことの三点において、比類のない徹底した戦争否定の態度を打ち出しています。

ところが今日、安倍政権下で、日本国憲法の下では認められない「集団的自衛権」行使の強行容認以来、急速に政治的右傾化、軍事大国化へと突き進んでいます。台湾有事、北朝鮮、ロシアのウクライナへの侵略戦争、イスラエルのパレスチナへの虐殺行為等々、戦争の脅威を煽り、祖国防衛、日本も核保有をとの声が公然と垂れ流されています。

一方で、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の長年の核廃絶への運動が国際的にも評価され、2024年秋「ノーベル平和賞」を受賞し、あらためて核廃絶・世界の平和を求める国際世論が高まっています。しかし、唯一の被爆国である日本政府は、核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加もアメリカに追随し拒否し、この流れに背を向けています。今こそ、戦争反対、平和と民主主義、非武装中立を求める勇気ある声と行動を起こす時です。

新自由主義がもたらした自国第一主義

アメリカ帝国主義の行き詰まりにより、1971年の金ドル交換停止、73年の変動相場制への移行、という新自由主義への歴史的な大転換が、第二次世界大戦後、世界資本主義の高度成長を維持してきた国家独占資本主義体制、ブレトンウッズ体制の崩壊によりその機能を失ったのです。1985年の「プラザ合意」（ドル安・円高）以来、多国籍資本の「世界最適地生産」がその本質です。その結果、矛盾は拡大し、先進資本主義国の国内産業の空洞化が進み、失業者の増大、格差拡大、人権までが否定される反動的な国際的右傾化の波が押し寄せています。ヨーロッパの右翼ポピュリズムの台頭、アメリカのトランプ

大統領の再登板に見られるように、移民、難民がその原因であるとして、民族主義的社会排外主義の右翼的強権政治が分断を強めています。アメリカ第一主義をかかげ、高い関税を振りかざし、貿易の自由化の流れから保護主義へと歴史の逆流です。結果、戦後、政治的にも経済的にも世界をリードしてきたアメリカの役割、権威が地に落ち、ASEAN諸国のアメリカ離れも加速しており、国際的孤立化への道を強めています。

日本では1989年、総評労働運動の解体、「連合」結成への流れで、低賃金、長時間労働から脱却できず加速してきました。1990年以来、新自由主義政策により日本の労働者、国民の生活は根底から破壊され、ほとんどの国民が生活に対する不安、格差拡大、政治に対する不信を拡大させています。

しかし、先の衆議院選挙結果に見られるように国民の意志は変化を見せはじめています。ただ、自公与党の過半数割れをさせたものの護憲・平和・民主主義の勢力が減少し、全体的には右へ寄った政治勢力になっています。

石破内閣は、日米同盟を都合よく利用し軍備拡張への道を進めようとしています。7月の参議院選挙は、政治の流れを変える大きな反撃のうねりをつくる試金石になります。

学習と相互討論こそ、友の会運動

大衆学習運動は、労働者としての自覚に目覚める運動であり、「労働者として生きること誇りを持てる人間になろう」ということです。その中心は「学習と相互討論」です。相互討論は、人の意見を尊重し自分自身の意見・考えを出し合うことによって、お互いの理解を高め合っていくものです。「自分の頭で考える」「心と言葉が一致する」ように努力することが大切であり、新しい発見も生まれます。「相互討論」は、組織的な団結への第一歩です。「一歩ふみだす、勇気と行動を！」は、第30回全国交流集会のスローガンです。

お互いが学び合い、認め合うということは、信頼し合うということであり、必ず空気を変え、仲間の心をつかむ力になります。そこに人はつながり、心と心が結び合い、組織が生まれます。組織するということは、仲間の心を捉えることです。

目指すは、社会主義運動、労働運動の強化をとおして、日本における社会主義社会の実現を目的とした運動である、と位置づけてきました。いわば、階級闘争前進への基盤づくり、土壌づくりであり人間性回復のたたかいです。

資本や支配階級が最も恐れるのが、労働者が集まって職場や社会の不平・不満や怒りを「相互討論」することです。攻撃的は、労働者の権利意識と労働者思想の排除と根絶です。この一点にあると言っても過言ではありません。

第一学習会は、小さな団結づくり

『月刊まなぶ』3000部拡大運動は、資本に対する怒りを組織する運動です。しかし、様々な困難な条件や要因がありますが、現状、減部数の傾向が続いています。

あらためて内外の五人組運動、人間関係づくり、相互討論の重要性が求められており、みんなで真剣に取り組む継続的な課題であり目標でもあります。

私たちの運動は、県協や地区協、単位友の会の長期方針という積み上げの運動であり、一人ひとりの個性を生かしながら具体的な運動を進めていきます。これが、年間方針づく

りです。さらに、具体的に踏み込んだ討論にまでなっているのか、この具体的な課題が、第一学習会で信頼関係に裏打ちされた相互討論で検証されているのかが問われています。

組織的な運動とは、丁寧な総括運動を繰り返し積み上げていくこと、「方針の実践は、総括の歴史である」（灰原茂雄）と言われています。当然のこととして、方針のないところには総括もできません。正しい方針は、正しい総括から生まれてきます。これが積み上げの運動です。

私たちの構えは、徹頭徹尾「仲間にならぶ」という姿勢、日常的活動が基本です。いわば、仲間の悩みや苦しみ、苦情や怒りの声を、粘り強く聞くことから、具体的な課題が明らかになってきます。仲間を思いやる気持ち、そこに信頼し合える人間関係が生まれます。そのためにも、学習会の都度に出し合うお互いの近況報告の継続性を、もっと重視する必要があります。近況報告の多くは、出しっぱなし、聞きっぱなし、になりがちです。

第一学習会の在り方で、学習半分、近況報告半分を実践し、記録に残し継続討論にしている友の会もあります。「自分のことを真剣に聞いてくれる」「悩みを一緒に考えてくれる」等の声があり、「学習会が待ちどおしい」という成果も出ています。

四つの課題を三つにならぶ

第一に、私たち労働者階級こそが、社会の主人公、職場の主人公である、ということです。当然に、主人公にふさわしいように、人間らしい生活をする権利がある。人間らしく働きつづけ、生きつづける権利がある、ということです。

第二に、にもかかわらず、私たちの生活は大変貧乏であるし、不安定である。つまり、働きつづけ、生きつづける権利が保障されていない。その原因はどこにあるのか、という課題です。それは、資本主義社会のしくみそのものに原因があるということです。

第三に、社会のしくみそのものに原因があるとするならば、労働者階級を中心とする組織された力を強化するなかで、たたかいをとおして、社会を変えていく以外にはありません。

第四に、たたかいの展望、そのたたかいは、歴史的な法則にのっとりたたかいてあり、必ず勝利する、ということです。

こうした四つの課題を、私たちは学習運動のなかで、古典にならぶ、資本にならぶ、仲間にならぶ、という三つの基本的方向を訴えてきました。それは、個々バラバラのものではなく、相互に密接なかわりを持っていきます。

「古典にならぶ」ということは、マルクス、エンゲルス、レーニンの思想に学ぶ、ということです。「資本にならぶ」ということは、資本主義社会のなかで具体的事実として、どのようにあらわれているかを確認していくということです。「資本にならぶ」ためには、仲間との討論のなかで検証しあっていくことが重要です。そのことが、「仲間にならぶ」ということの意義でもあるのです。

私たちが目指すもの、労働者の世界観

歴史をつくるのは人間です。人間の歴史には、発展の法則があります。資本主義の経済的運動法則に添ってのみ、歴史がつくられるのです。「理論なき実践は盲目である」とも言われます。「理論の武器をみがく」日常的な学習運動が最も大切です。

まなぶ友の会運動は、「四つの課題を三つにまなぶ」大衆学習運動を基調としています。これを換言すれば、労働者は、唯物史観と『資本論』に学び、労働者階級の歴史的使命を自覚し、科学的社会主義に不動の確信をもって生き抜く人間になろう、ということです。

展望があるから、希望が生まれる！仲間を信じることは、必ず力になる！信頼は宝です。自らが労働者の一員であることに誇りをもって生きていくことに意味があるのです。

つまり、友の会運動とは、資本主義的常識をいっばい身につけた広範な大衆を組織するなかで、その思想を、生き方を変えていく運動と言えます。亀の一步一步の前進です。「学ぶことは闘いである」とは、こういうことです。

この思いを継続発展させるためにも、家族ぐるみのたたかい、日常的な取り組みがきわめて重要です。

なくてはならない、家族ぐるみ

『月刊まなぶ』の思想的背景は、三池・安保のたたかいの中で生まれ、階級および階級闘争を学ぶ「労働者の本」として成長してきました。三池のたたかいで欠かせないのが三池労働者運動を進める中での総括として導き出された「家族ぐるみ」のたたかいです。

「家族ぐるみ」は、労働者が人間らしく働きつづけ生きつづけるために不可欠な、家庭の民主化という問題であり、団結の問題でもあり、労働者運動の基本的な課題ではないかとの理解が深まりつつあります。

特に資本への怒りを労働者階級として組織し、たたかうかぎり「家族ぐるみ」を抜きにしては、長期にたたかい続けることは困難です。同じ方向へ向かう構えがあつてこそ、たたかい続けることができるのです。そのためにも、家族みんなが本音を出し合える話し合いの場をどうつくっていくのか、お互いを認め合い、理解し合い、力を合わせ、一歩前へ歩みだす力をどうつくっていくかということが大切です。「家族ぐるみ」の運動が、大衆学習運動にはなくてはならない運動だということです。

会員の任務は、資本への怒りを組織すること

まなぶ友の会運動、大衆学習運動では、友の会・会員一人ひとりが、担い手としての任務を自覚するとともに、人間的な成長に努力することが大切です。

問題は、会員が、会員の任務を自覚し、日常的に目的意識を持った運動や生活態度を持てるかどうかです。いわば友の会運動を自分の生き方にするということです。困難をのりこえて自発的に自分の問題としてやりぬく、こういう理解と認識、自分の頭で考える構えが担い手の中身です。

あらためて「会員の任務とはなにか」を、再認識することが求められています。一つには、友の会運動の担い手であり、大衆学習運動の組織者であるということです。二つには、会員相互の団結づくりです。日常的な相互討論や家族ぐるみの交流をとおして、目的に向けた全国的な団結をつくることです。三つには、もう一人の仲間づくりです。『月刊まなぶ』拡大運動は、資本への怒りを組織する運動です。怒りは、力の源泉です。自らのたたかいでもあり、温もりある団結です。

継続性と組織的發展を

三池の長期抵抗大衆路線を一言でいうならば「たたかいの中で組織する」ということだと言われています。自らが、たたかいの中に身を置く構えなくしては、非常に困難な課題です。大衆路線の構築を通してのみ、社会変革を実現する道であり、大衆路線を通して大衆運動に転嫁することが、労働者運動にとって大切な展望です。

まさに私たちの運動は、継続性と組織的發展が重要です。指令・指示の運動ではなく、真実に対する謙虚さと自己批判精神をもって、自らつくりだす運動です。「組織づくりは連絡から」と言われます。連絡のないところに組織は生まれません。人と人との繋がりがあって社会はなりたっています。信頼関係のないところには、組織づくりは難しいということです。しっかりと根を伸ばし、根を張り仲間を組織することです。

労働者の唯一の力は、組織的な団結力以外にありません。「走れば回る風車」、風がなければ自らが走ることです。問題は、困難な時こそ私たちの構えが問われているのです。

6ブロックの統一に向けて

6ブロック統一の課題です。県協連は、「統一に向けて条件を付ない」という方針で望み、3ブロック（東北・中日本・九州）の窓口である中日本の保田さんと三宅副会長で話し合いを持ってきました。コロナ禍の影響もあり、ここ数年話し合いの場が持てず「保田さんが諸会議等で東京に出てきた時に時間が取れば話し合いの場を持つ」ということを確認し「連絡待ち」という状況でした。

「“待ち”の姿勢ではなく積極的に働きかけるべき」という意見もあり、県協連としては「統一に向けた話し合いをしたいので、都合がつけば連絡をいただきたい」と再度要請するとともに、「お互いに交流することから始めては・・・」と提案してきました。保田さんからは、「3ブロックの世話人会で相談してみたい」という返事をいただきました。「連絡待ち」という状況は変わりませんが、できる限りコンダクトをとり統一に向けた道筋を模索していきます。

分散会の持ち方

分散会は、5～6人を単位とし、次の2点を重点に交流してください。

- ① 労働者として人間として、生活苦、資本への怒り等、どう生きようとしていますか。
- ② 自分にとって、第一学習会やまなぶ学習会は、どういう存在になっていますか。

なお、友の会に入っていない方、家族の方にも、発言できるように、座長さんの計らいで無理なく、円滑に進めていただきたいと思います。

以上をもって基調提案とします。